

## 千の風になったあなたへ

七才の男孫、と満一才になったばかりの女孫と二人の幼い子どもを残して愛娘は発病後あっ！という間に旅立ってしまった。想像だにしていなかった。逆縁の苦しみと喪失感に苛なまれ、胸が張りさけそうな悲しみから抜け殻状態になった。悪夢なら覚めて！と願いながら堪え難い現実を受け止めながらも徐々に立ち直れたのは、親族、友人、拙文を投稿し、切磋琢磨し合っている稿友や周りの方々の支え励まし、かけがえのない残された孫二人のとびっきりの笑顔パワーだった。

茜色に暮れなずむ空を見上げて「僕だけに見えるママの雲があって、天国で見守っているから頑張れ、と言ってくれる声が聞こえるよ」と涙ぐんでいた孫、底冷えのする朝、仏壇に御飯を供えながら「ばあちゃん、ママのご飯作ってくれてありがとう。近所の子はママがいるけれど僕はばあちゃんがいるから充分だよ」と悲しみを心に秘めての私への気遣いは健気で不憫で思いきり抱きしめた。

一才の誕生日直後母を亡くした女孫は、急な卒乳を余儀なくされ、痩せているある日、四十一度近い高熱が下がらず泣きたい思いで朝夕二度もおぶって病院へ通った。「今は多くの病気に感染するけれど三才過ぎると元氣になりますよ」医師の言葉をすがる思いで聞いた。泣き止まない子を背負って凍り着く夜かじかむ手で洗濯物を干していると星になった娘のエールを耳にした。

子煩悩で自分の事は後回し子育てに心血を注ぐ娘婿の姿は孫育ての私の背を押し勇気をくれた。心が折れそうな時、目敏く私の涙をみつけた女孫は大粒の涙を零し「喜んで笑って」と心の底からの笑いを要求し、弱った心に喝を入れてくれた。職を辞し三年半泊り込んでの育児は不安と戸惑いに心のひだが揺れ動いた。あれから八年余、今春男孫は希望した進学高校に無事合格、七才で背負った母親の死という心の傷をバネに這い上がった。目標は大きい方がいい、諦めないで医師という目ざすものに向かいたゆまぬ努力をして欲しい。

手を携えて応援したい。成長過程を目にし、お世話させて貰えてばあちゃん冥利に尽きる。二人の笑顔はパワーの源、娘が生きていれば共有できて幸せが倍になるのにと涙。私が天国であなたに会う時は成長した二人の子どもの報告ができるといいね。